

公告 昭 32.4.26 出願 昭 30.5.2 実願 昭 30—18722

出願人 考案者 三 並 義 忠 東京都大田区南千束町255
代理人 弁理士 奈 倉 勇

(全3頁)

三 重 電 気 炊 飯 器

図面 の 略 解

第1図は本考案器の平面図(左半部切断)、第2図は電熱加熱体(コイル)の平面図、第3図は第1図A—A線拡大断面図、第4図は第3図B—B線下面図(一部切断)を示す。

実 用 新 案 の 説 明

本考案は、開口部10に蓋fを装着した加熱釜a内に水wを入れる間隙を設けて炊飯釜gを入れた電気炊飯器に於て、加熱釜aの上部側周縁7を筒状外装eの上縁9に掛着して、加熱釜aの外側に温熱室8を設け、又加熱釜aの底1の下面2に設けた平坦状凹所3に、環状扁平状に配列して構成した電気加熱体cを当て、その外部に加熱釜aに定着した支持板dの内側を当てて支持させて、外装e、加熱釜a及び炊飯釜gから成る三重電気炊飯器の構造に関するもので、図面に於て、4は電気加熱体cの電熱線bを巻き付けた絶縁板、5 6はその両面を挟着した絶縁板にして、その外部に支持板dを当て、これを釜aの底1の下面2に止鉤11, 11にて定着する。12, 13は電熱線bの両端14, 15に接続する導電線、hは必要に応じて設けた簀子の如き炊飯釜gの受台、w'は炊飯釜g内に入れた米及び水を示す。

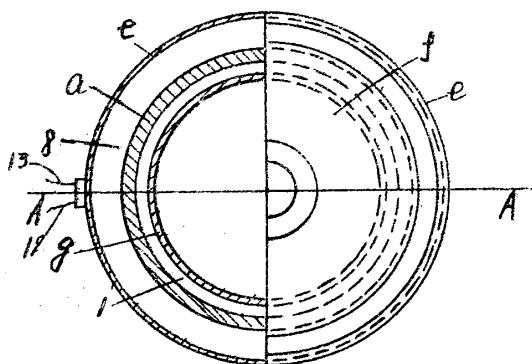
かくして、本考案に於ては、加熱釜aの底1の電気加熱によつて加熱釜a内の水wを加熱蒸発さ

せて、炊飯釜g内の米及び水w'を加熱して炊飯を行わせると共に、温熱室8内の空気を温めて、この部分に保熱させる。而して、加熱釜aの電気加熱を遮断した後は、筒状外装eと加熱釜aの外側との間に形成される温熱室8内の保熱気によつて加熱釜aが保熱されて炊飯熟成を有効に行わせると共に、電気加熱体cは加熱釜aの底1の下面2に設けた平坦状凹所3に当てて配置し、加熱釜aに定着した支持板dを当てて支持させてある為、加熱釜aと離間することなく定着されると共に、加熱釜aの加熱効果を大きくして加熱を有効確実に行つて炊飯効果を十分にさせることができるものである。

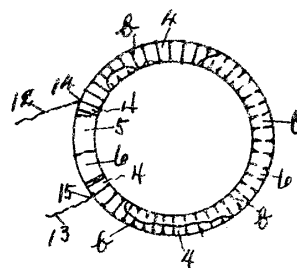
登 録 請 求 の 範 囲

図面に示すように、開口部10に蓋fを装着した加熱釜a内に水wを入れる間隙を設けて、炊飯釜gを入れた電気炊飯器に於て、加熱釜aの上部側周縁7を筒状外装eの上縁9に掛着して加熱釜aの外側に温熱室8を設け、又加熱釜aの底1の下面2に設けた平坦状凹所に環状扁平状に配列して構成した電気加熱体cを装入し、その外部に加熱釜aに定着した支持板dの内側を当てて支持させて、外装e、加熱釜a及び炊飯釜gから成る三重電気炊飯器の構造。

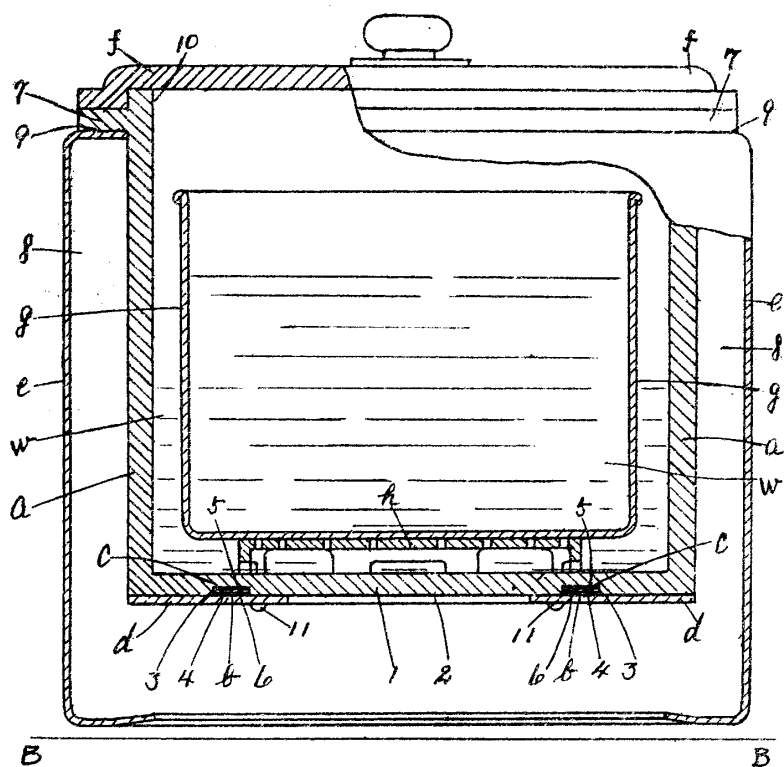
第1圖



第2圖



第3圖



第4圖

